

成人の学習要求と学習状況：婦人の学習行動を支える学習要求の分析

著者	山本 和人, 金平 文二, 鈴木 裕子
雑誌名	東京家政大学研究紀要 1 人文社会科学
巻	32
ページ	197-205
発行年	1992
出版者	東京家政大学
URL	http://id.nii.ac.jp/1653/00008860/

成人の学習要求と学習状況

— 婦人の学習行動を支える学習要求の分析 —

山本 和人・金平 文二・鈴木 裕子

(平成3年9月30日受理)

Learning Needs and Learning Conditions of Adults — An Analysis of Women's Learning Activities and Their Needs —

Kazuhiro YAMAMOTO, Bunji KANEHIRA, Yuko SUZUKI

(Received September 30, 1991)

はじめに

最近の成人の学習率は、およそ2人に1人から3人に1人くらいの割合となり、何らかの学習を行う人々が増えてきている。また、成人のおよそ3人に2人が学習要求をもち、学習したいという要求は特に女性に多いということも調査結果から明らかになってきている。(注1) 人気のある学習内容を見てみると、実習に行っている学習活動の場合でも、これから学びたいとする学習要求の場合でも、「芸術・芸能・趣味に関する学習」の比率が高く、次に「体育・スポーツに関する学習」「教養に関する学習」となっている。それらの内容をより詳細に小項目単位で調べてみると、実際の学習活動では、436人の学習者が回答した学習内容の種類は、約190項目に及び、また、これから学びたいと希望する学習内容は、学習希望をもつ人854人に対して、内250項目にも及んでいる。(注2) すなわち、学習率の上昇、学習要求率の上昇とともに、そのような調査結果から、学習内容面の多様化が進んでいるといわれる。

学習内目について見ると、人々は学習活動に、生きがい、精神的な豊かさや充実感を求めていることも明らかになってきている。(注3)

さらに、学習方法・形態について見ると、生涯学習社会への移行が進められている中で、「集合学習と個人学習が生涯学習の中核となっている」ことが指摘されている。市民が思いのままに書いたレポート、「私の生涯学習」40編を分析した結果、地域の教育施設や教育機関を通しての集合学習と、資格試験のための学習、各種の通文学部心理教育学科、家政学部児童学科、短期大学部保育科

信教育制度、個人教授、マスコミ利用の学習などによる個人学習という、2つの形態を中心とした生涯学習が展開しているというのである。(注4)

このような、学習行動と学習要求に関わる、学習率、学習要求率、学習内容、学習方法などについては、これまでその多くが、大量観察による質問紙を用いた調査票調査で行なわれてきた。しかし、先に見たように、人々が行っている生涯学習の学習方法・形態の実態を明らかにしたことは、「市民の学習要求や学習行動をこれまでの調査方法だけに限定せず、別種の方法も大胆に活用し、これまで以上に市民の実態を把握しなければならない」と提言している。(注5) 生涯学習・生涯教育が一人一人の学習要求、学習行動に基づいて成立するものであるとすれば、成人のありのままの姿をとらえる必要がある。これまでの調査方法だけで、「第一のプロセスである市民の学習要求・学習行動の把握が本当に正確になされているか」を検討する必要性は大きいと思われる。「素直にこれらの一つひとつの調査票の中からは、一人ひとりの市民の学習行動の生き生きとした全体像が伝ってこない」(注6)と述べるように、また、一人一人の生涯学習に応じていくためにも、より細かな検討と対応が必要になってくる。

調査方法と調査対象について

今回の調査は、面接法で行った。(注7) あらかじめ用意した質問を、一応の順番を決めて質問した。しかし、回答の内容との関係で、質問が前後したところもある。質問の際、その質問については被調査者にあまり説明せずに発問する努力をした。これは、被調査者が質問自体をどのように意味づけて回答するかを調べるためでもあ

る。

なお、面接の際、被調査者に了解の上、テープレコーダを使用した。再現の確実性を図るためである。

調査対象となったAさんは、主婦、48才、平成2年度金沢大学公開講座「歴史・文化・社会の中の数理」の受講者である。夫の転勤により大阪市より4ヶ月前（調査時点において）に転居してきた。小さな市民グループで環境問題等について活動し、現在もかかわりを持っている。また、ミニコミ誌にエッセイを書くなどもしている。夫と二人暮らし。

面接調査は、事前に全受講者を対象とする講座参加に関わる調査票調査を実施し、面接調査に応じてよいとする人の中から、面接可能であった人に対し行った。なお、「歴史・文化・社会の中の数理」の受講者は74名、回収調査票数57、有効回答票数56であった。性別、年齢構成等は表1のとおりである。

表1. 調査回答者の属性

数字は%、()内は実数

	カテゴリー	比率
性別	男	58.9
	女	39.3
年齢	20歳未満	—
	20歳代	7.1
	30歳代	17.8
	40歳代	28.5
	50歳代	14.3
	60歳代	23.2
学歴	70歳以上	8.9
	旧制小学校卒	1.8
職業	新制中学・旧制高小卒	32.1
	新制高校・旧制中学卒	—
	大学・短大・高専在学中	1.8
	短大・高専卒	12.5
業	大学・旧制高専卒	51.8
	勤め人	53.6
	自営業	5.4
	農林・漁業	1.8
	主婦	16.2
	無職	21.4
その他	その他	1.8
	全体(各合計)	100.0 (56)

インタビュー結果（質問と回答：Aさんの場合）
 <質問と回答は「(中略)」と表示した箇所以外は、そ

のまま掲載してある。ただし、①～⑦の前後は省略したところもある。>

①

Aさんが参加されている講座というのはどのようなことを学ぶものなのでしょうか。私は、ちょっと講義を聞けなかったものですから、教えていただけますか。

中味は、その数理というのはどういうことなのでしょうか。

あの数学の先生なんですけど、単なる数学じゃなくて今日のような古代史の中の数理とかそれから文化あるいは社会ですね。その中の数理というものを学ぶ講座のように聞いております。

ええ、まあ最初はゲームだとか、それからええ今日のは古代史ですね。魏志倭人伝とかストーンヘッジとか、それから次回は、弘前の大学教授夫人の殺害事件がありましたけど、そういった社会問題にあらわれた世の中の現象を数理的な面から見ていくということだと思います。

そうすると、ま、ちょっと今例に挙げられましたけれども、例えば、その例えて下さったことをもう少し詳しくおっしゃっていただけますか。

今、出てきた中の黄金分割というのはどういうのでしょうか。

一番最初は音楽とか、黄金分割とかそういう話がありまして、例えばその音楽なんかでも黄金分割のような形でそのテーマがあらわれてくるとかね。そういう話もありましたし、今日の魏志偉人伝なんかは非常に数字そのものと結び付いていると思うんですけれども、あのお、朝鮮半島から邪馬台国までの距離とかそういうのも、そのまま数字であらわされているっていうお話でしたし。…どう説明していいかあれですけど。

あの、よく黄金分割って…よく見ないとわからなくなりますけれども…ええ、黄金分割の説明ですか？

(中略)

ええ、あの、一定の比があるわけですねえ。ええそれがその幾何学的にもあるいはその幾何学的に美しい分割の仕方であって、その、ええ像とかですね。あの彫像の像ですね。ああいうのは頭の高から、からだ、足の先までのそのちょうど比率がですね、非常に美しい割合でなされているのが、あのお黄金分割だと言われているのですけれども。それをまあ聞いたことがあったんですが、そういうのがまあ例えば音楽なんかにもまあバルトークの音楽でしたけれども、そういうなのにもでてきているという話とか、黄金分割に関しましてはね。ちょっと、ちゃんと説明できないのですけれども。

②

で、あの、この講座全体としては、どんなことを、学ぼうとされているんでしょうかねえ。

そうですねえ、この先生のあれでは、そのうーんどういったらいいのかなあ。あのお数学っていうのはひとつの論理の問題だと思うんですけれども、それを何回も言っているようにゲームとかあるいは社

その際に、数学的な論理というのはどういうこと
なんでしょうか。

③

どうしてこの講座に参加されるようになったのか、
ということを知りたいのですけれども、まあ、直接
のきっかけでしょうかね。

ええ、まあそれも含めて

会事象とかそういったものを数学的な論理から眺め
てみるということだと思ひまして、ま、そういう見
方というのもおもしろいなあと思ひて私は受ける気
になつたんですけれども。

それはひとつはやっぱりこう数字できちんとあら
わされていくってということだと思ひますけれども。

ええ、直接何を見てとかそういうことですか。

ああ、そうですね、それじゃもつとずっと引いた
かっこうから言ひますと、ずっと前からこういう大
学の公開講座という形、というよりも、別に公開講
座に限定しないんですけれども、社会人として大学
で何らかの形で学ぶというのが最近トレンドとい
うか流行ってますので、流行ってますし、私もそう
いうことを大学で学びたいと思ひまして、例えば
聴講生で行くとか、それから社会人入学制度とか、
いろいろ方法がありますよねえ。で、その方面の本
なんか読んでみたんですけれども、あのおなかなか
むつかしいということがあります。まず時間的な問
題もあるし、それから能力の問題として、社会人入
学で通うとなると、試験を受けなきゃならないとい
うことがあつて大変むつかしいという問題と。それ
からもうひとつは、聴講生にしろそれから社会人入
学にしろ外から見ますと、その大学で、どういう
先生がどういう講座をやっているのかというのがわ
からないわけです。ナニナニ先生のナントカの講座
ということはわかるけれども、でも、その先生がど
ういう内容で、あるいはどういう思想をお持ちなの
かというのが全然わからないと。で、ふつうの高校
から入つたときの大学だったらそれはそれでいいと
思ひますけれども、社会人としていったん学びだ

そうとするとときには、なんでもいいからっていうんではちょっとつまらないなあと思ったんですね。で、まあ社会人入学とか聴講生も、もっと本当は調べればそういうことわかると思うんですけどもよっぽどそう熱心に中に入って調べないとちょっとわからないと、(ということですか)。大学講座だったら割合その講座内容とかが比較的簡単に入手できて、受けたいもの、自分の興味を引くものを選ぶことができるんですけども。そういうことで、私今まで関西に、大阪周辺にいましたもんで、結構、大阪大学とか神戸大とか関学とかなんか各私立大学のあるんですけどもいまいち興味の引くものがなかった。というのは一様に概論的なものばかりだったんですね。それで、そんなんだったら本を読めばわかるというようなものが多かったもんでね。それで、それとちょっとなかなか時間的な制約があったりして行けなかったんですけども。で、この4月にこちらへ来ましてたまたま市立の図書館でこういう公開講座があるっていうのを見て、こちらへ来たばかりで比較的ひまだったもんで、まず時間が取れたということと、それから非常に興味を引く内容があったので。この数理の方とそれからもうひとつ「金沢学事始」という講座がありましてどちらにしようかなと思ったんですが、「金沢学事始」というのはなんかまた聞く機会がありそうな気がしたもので、まずしょっぱなはこちらの興味をひいたものをもと受けたんですけども。期待に違わず、大変、先生自体が非常に、なんていうのかな、言い方失礼かもしれませんがけどおもしろい先生ですし、考え方もすごくユニークな感じで、受けて良かったとは思いますが。

④

今、非常に満足されているという風におっしゃられていましたけど、楽しかったことというと、どんなことが楽しかったのでしょうか。満足が、楽しいとは限らないかとは思いますが、満足されているというのは、どういう点で満足されたのか、もし差し支えなければ…。

世の中には知らないことが、いっぱいあるんだなあということが本当によくわかりますねえ。で、あの最初バルトークの音楽のことを言いましたけども、あれも正確に言うと黄金比という名前じゃなくて、なんかフィボナッチ数列と言って一定の数列であらわされている音楽のようなものも、そういう風にひとつの規則でテーマが出てくるものもあるんだというようなこともおもしろかったですし、それからいろんな日常遊んでいるゲームですね。それもひとつの数学的な定理っていうか、そういうものであらわされるっていうものなるほどなあという風に思いました。

⑤

今日は3回めとうかがったんですけども、「歴史・社会・文化の中の数理」という講座ですね。この講座が全て終了したら今度はどうされますか。

ええ、そうですね。今はまだ別に考えてないんですけど、また9月から後期のがありますからその中でおもしろそうなを選んでいきたいとは思ってますけれども。

そのときにおもしろいっていうのは、どういうのがおもしろいのでしょうか。

ああ、そうですね、私は興味がもうかなり手当たり次第というところがありますので、今、どのということはわかりませんが、出てきたものを見て判断するという感じです。

(中略)

そうしましたらこの講座が終わったら、つまり土曜日の午後ですが、もし何か講座があれば受けられるかもしれませんが、この講座に参加されていないとしたら、Aさんは、この時間何をされていたのでしょうか。

何してたでしょうねえ。なにかポケッと音楽でも聞いて寝てたかもしれません。

また音楽でないにしろ、他のことでもいろいろやれるものはあるかと思うんですが、そういうのをやらずにですね、公開講座を選んだっていうのは何かあるんでしょうか、あまりそこまで考えずに…？

ここで参加される前の土曜日はどんな風に…？

⑥
参加しやすいっていうのはどういうことなんでしょうねえ。

⑦
そうすると、この「歴史・社会・文化の中の数理」という中で学ぶということはそういう具体的な知識じゃないものもあるっていうことなんですか。

それは、実用的ではないという…。

家でポケッと時間を過ごすのも、もったいないですし。

大坂に居たときはいろいろな、そのサークル・グループ活動があつて忙しかったから。毎日いろんなことで出歩いてましたから。

そうですねえ、自分で思ったらパツと入れるということじゃないですか。例えば町内会の講座とかいろんなヨガとか料理教室とかなんかありますでしょう。ああいうのはもうご近所で、がっちり輪ができますでしょう。そこへよそ者が入るとかなりしんどいと思うんですね。そういう意味で、ここはたぶん大学の講座ですから、その中でももちろんお友達ができればいいし、いいんですけどとにかく来た最初は誰がどんなことしてて、どういうことかかって全然気にしないで済みますでしょう。だからそういう意味で入り易いと思うんですが。

ええ、まさに、そうだと思いますよ。特にこの数理のところへんは。具体的な知識、すぐにこれが何かに役立つというものじゃなと思います。

そうですね、例えばワープロの講習とかああいうものとは違ってそういう意味では別に実用的じゃないと思います。

それでは、どういうところで役に立つんでしょうか。役に立つてことはないんでしょうか。

そういうことは期待していない…？

実用講座と、この数理の講座とは明らかに違いますか。

もし役に立つとすれば、物を考えるときの考え方の論理っていうんですか。論理の持ち方とかそういうことで、いつかどこかで役に立つかもしれませんね。

いいえ、私はたぶんどこかで役に立つだろうと思います。そういう意味でならね。だからすぐこれが日常生活でね、何かに役立つということじゃないと思います。それはそれで、そういうことが欲しければそういうもつと実用講座に行けばいいわけですから。

違うと思います。知らなくても別に差し支えないことです。これは、だけれども知っておいた方が、非常にきれいな言い方をすれば、人間性とかあるいは物の考え方とかそれを形成する土壌みたいになるものだと思います。

ま と め

提示した面接記録は、全体の一部にすぎない。①～⑦は、面接の時間流れに従っているが、前後を切断した箇所もあり、十分な回答結果を示し得ていないともいえる。また、講座受講者の構成から見ると、面接した回答者は、受講者を「代表」しているわけではない。さらに、事例研究の成果を性急に一般化することはできない。今後、この種の面接調査を続け、事例数をふやしながら理論化していきたいと考えている。

今回の調査結果を箇条書き的にまとめれば、次のようなことが言えるのではないだろうか。

(1) 学習内容と学習要求：成人の学習者は（この事例では）、自ら学ぶ内容について、何かに役立つと期待しているが、知識の求め方として、それほど明確なものを求めているわけではない。しかし、学ぶこと、知ることが「楽しみ」となっている。（①、②、④、⑦）

(2) 学習内容と学習情報：成人学習者は、学習情報の提供を求めている。自らの条件を考慮に入れ学習の機会を選択するために、より多くの情報を欲している。そのような要望に応ずるためには、これまで以上に木目の細かい情報提供が必要となる。

(3) 学習の計画性と学習要求：成人の学習の計画は、それほど明確なものがあるわけではなく、また、学びたいとする学習の内容も、あらかじめ十分考えられ、理解されているものでもない。成人は目の前に学習内容が提示されることによって、選択を行う。（③、⑤）

(4) 学習の場への参加：学習の場への参加のしやすさは、時間、場所等の条件のみによるのではない。成人の学習者は、さまざまな学習機会について、ある種のタイプ分けが存在し、そのタイプと自らの学習を関連づけ、納得できる場合に学習行動＝学習の場への参加が生じる。

これらの結果は、必ずしも一般的な結論といえるも

のではない。しかし、これからの生涯学習を援助していく学習情報の提供や学習相談のあり方を考えるときに、役に立つものと考え。

<この調査研究は、東京家政大学1989年度特定研究費（金平文二・山本和人・鈴木裕子の共同研究。代表者山本和人）を受けて行ったものである。また、本報告は、1990年度日本通信教育学会第18回研究協議会の席上、山本和人が一部を発表したものである。本稿の文責は山本が負っている。>

<注>

注1. 浅井経子「第Ⅲ章3成人の学習傾向」池田秀男他著『成人教育の理解』実務教育出版1987.

注2. 板橋区教育委員会『板橋区民の文化、学習、スポーツについてのアンケート調査報告書』1989.

注3. 注1文献

注4. 辻功「個人的生涯学習計画と援助システム」辻功・新井郁男編『生涯学習援助の企画と経営（生涯学習講座3）』第一法規1989.

注5. 注4文献

注6. 注4文献

注7. 面接調査は1999.5.26に実施した。調査対象は、金沢大学教育開放センターが実施する開放講座（前期）の受講者である。今回ここに回答結果を示すのは、その中の一人についてのものである。